

えーる！

平成 31 年/令和元年号

 まちづくり応援団 えーる

もくじ

- 第45号 ふくぷくファーム
- 第46号 ワサビ農家板垣さん
- 第47号 石船温泉桜まつりと町なかの桜
- 第48号 長野山口ロッジと山開き
- 第49号 いっておかえり。鹿野市
- 第50号 ふる里マルシェかの
- 第51号 天神祭
- 第52号 工芸としての茶室展・山代和紙
- 第53号 COUNTRY FES

社員みんなで全力農業！

えーる！

発行：まちづくり応援団えーる



農業する会社 へ新しい農業の形へ

新年あけましておめでとうございます。本年もまちづくり応援団えーるは、鹿野の応援を続けていきたいと思っています。

本年最初の「えーる！」

では、農業の会社である「ふくふくファーム」さんをご紹介します。

農業の会社、と言うと少し驚かれるかもしれませんが、鹿野でも、ふくふくファームさん以外にも、鹿野アグリさんや鹿野ファームさんなど、会社として農業をされる方がいらつしやいますよね。

しかし、起業するのなら他にも業種があるのに、なぜ農業なのでしょう？ふくふくファームの代表取締役・白井さんに、

農業を選んだ思いをうかがってきました。

白井さんがふくふくファームを起業したのは平成24年、32歳のときのことでした。

大学の頃から起業を考えていて、その修行としたい会社員として働いていたこともあったそうです。

その忙しい中、ゴールデンウィークの頃になると、実家の田植えを手伝うために帰郷されていたそうです。そんな経験の中で、人を雇い、会社という形で農業を行ってみてはどうだろうかと考えられたことが、ふくふくファームを立ち上げるきっかけになったそうです。

また、農業のイメージアップをしていきたいという思いも語っていただきました。

現在、ふくふくファームさんの従業員は12人いらつしやいます。鹿野の方はもちろん、徳山や下松の方も働いています。

実は、若者の間では、農業に関心のある人が増えてきていて、注目されているんです。ふくふくファームさんでも、20代の若い方が働いているんです。農業が、地域の働き先の一つにもなっているんですね！

こうした取り組みは、県内各市の団体だけにとどまらず、東京からも視察に訪れるなど、注目を浴びているんですよ。

鹿野の誇る豊かな自然。その自然が育む農業がきっかけになって、鹿野での働き口が増えたり、鹿野に住む人を増やすことができれば素敵ですね。

鹿野から世界へ！ 海を越えるハウレンソウ



ふくぶくファームさんが生産しているのは、種もみと酒米、そして何といっても主製品のハウレンソウです。生産についてのお話をうかがうと、ものづくりに対する熱い気持ちを感じることができました。ハウレンソウの旬は冬なのですが、気候の涼しい鹿野では、一年中栽培することが可能な作物なんですよ。ビニールハウスの中でハウレンソウが育てられています、これは雨よけのためなのだそうです。



ビニールハウスの中で育てられているハウレンソウを見せていただきました。その時、白井さんがその葉を一つちぎって、食べてみるよう勧めてくれました。それまでハウレンソウといえばおひたしにして食べるイメージが強かったのですが、食べてびっくり！生で食べたのに、えぐみもなく、甘い味でしたんです。サラダにしてもおいしそうだなと思いました。白井さんの話では、焼肉の時に焼いて食べ



たりもするんですって。

おいしさの秘密をうかがうと、それはひとえに「土づくり」にこだわっているから、なのだそうです。緻密な計算の上に生産をしているとはいえ、野菜は豊かな自然が作りだすもの。おいしい野菜を作るためには、健全で栄養の豊かな土を作ることが必要不可欠なんです。

ふくぶくファームさんは、現在、県内約30万人分のハウレンソウを生産されています。実は、県内だけではなく、東京の高級店や、遠くはなんと香港まで輸出されているんですよ！鹿野の土で育ったハウレンソウが、なんと世界に届いているんですね。

医薬品である超世丸、防長四白の一つに数えられる山代和紙、和紅茶として進化を続ける鹿野茶など、鹿野には昔から遠方に輸出される品が多くあります。ふくぶくファームさんのハウレンソウも、そんな先輩たちに並ぶ、立派な鹿野ブランドですね。

山口の片田舎である鹿野から、世界に届くものができているなんて、とても素敵なことだと思います！

ハウレンソウは、サンマートで買うことができます。こんな包装のハウレンソウを見かけたら、是非手に取ってみてくださいね♪



沢でも畑でも、ワサビ！



えーる！

発行：まちづくり応援団えーる



ワサビ農家に新しい「風」が吹く

まだまだ寒い日が続いていますが、変わりなくお過ごしでしょうか？

今月号の「えーる！」

では、寒い冬の風物詩であるワサビについて取り上げたいと思います。

皆さまは「新規就農パッケージ」という制度をご存知ですか？ これは周南市で農業を始めようという人を支援するための制度を利用し、夏はトマト、冬はワサビの生産を始められたのが、今回お話をうかがった板垣^{ひとむ}さんです。

板垣さんは山口市の出身で、縁あって大泉で働いていたときにこの制度を利用されました。

農業大学校での研修を終えて農業を始められ、今は同じ研修を終えたごきょうだいと一緒に農業

に励んでいるんですよ。

板垣さんに鹿野の印象を聞くと「鹿野にいるとすぐゆったりとした気持ちになる。まわりの人も優しいし、農業をするにはうってつけの場所ではないでしょうか」と答えてくれました。

ものを作る工程が好きという板垣さんにとって、作物を育てていく農業、そして農業をするのにうってつけの鹿野は、ぴったりの場所ですね♪

ワサビには清流で作る「沢ワサビ」と、畑で作る「畑ワサビ」とがありますが、板垣さんは上の写真のようなビニールハウスで畑ワサビを栽培されています。

ご自宅のそばにあるビニールハウスの中には、ご覧の通りワサビがいつ

ばいでした！

このワサビは、よく見ると小さな白い花が咲いています。この「花ワサビ」の出荷時期は2月下旬、ちょうどお話をうかがった時期なんです。

ワサビは通常、収穫まで20か月かかる作物なのですが、板垣さんが使っている超促成栽培という方法なら、なんと1年でワサビを収穫することができます。ビニールハウスで育ったワサビは、春先にはなんと腰の高さまで育つのだとか。ワサビは小さい植物というイメージだったので、びっくりです。

鹿野の冬はやっぱりワサビ。板垣さんのような就農者が増えて、ワサビ生産がずっと続けばいいなと思います。

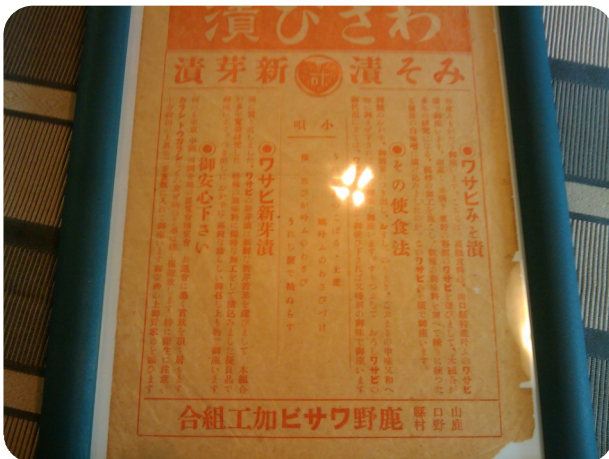
超促成栽培の秘密

表面でも少し触れた超促成栽培とは、ワサビの育成に適した8〜18℃の環境を維持することで、収穫までの期間を約1年に短縮できるという栽培法なんです。この方法がうまく根付けば、ワサビを栽培して十分な収入を得られるようになるのではないかと思います。ワサビ農家の高齢化も進んでいることで、作り手が減っていつてしまっているのが現状ですが、この方法がもっと広まれば、ワサビを作る農家も増えていくのではないかと思います。



わさびを漬けよう

ワサビはそのまま使うだけではなく、チラシ写真にも名前が見える「鹿野ワサビ加工組合」さんにより、加工品としても販売されていました。チラシには、ワサビのみそ漬けを「高級食料品」と紹介しています。お寿司やのりまき、昆布巻きに入れてみるとおいしいそうですよ♪ すりつぶしておろしワサビの代わりに、とお勧めされています。ワサビは、鹿野がまだ「鹿野村」であった当時から販売されていた、伝統ある食べ物なんですね！



そんなワサビの新芽である「ガニ芽」をぜいたくに使って作るのが鹿野のワサビ漬けなんです。手作業でワサビの汚れや黒くなった部分を丁寧落とし、水で洗って、湯につけて辛みを出す「ふる」という作業を行っていきます。この「ふる」作業はとても繊細な作業なんです。湯が熱すぎれば辛みが飛んでしまうし、ぬるすぎると苦みが出てしまうんですね。最適な温度はワサビの大きさや時期によっても異なるので、まさに職人の技が必要な作業なんですよ！



ります。手際よく冷やさないで、辛さにムラが出ておいしいワサビ漬けにならないんですよ。ワサビはかす漬けもありますが、わたしのイチ押しはやっぱりしょう油漬けです。ごはんやお酒と一緒に、ピリッと辛くシャキシャキした食感のワサビ漬けがあると、つつい食べ過ぎちゃいます。鹿野にとってワサビは何百年も前から栽培され続けた大事な名産品です。しかし栽培する農家が減れば生産量も減り、加工技術も廃れてしまいます。ワサビがたくさん生産できれば、ワサビ漬けがずっと残っていくと思います。

おかげさまで10周年！

まちづくり応援団えーるは、平成21年2月にフリーペーパー“くちコミ”第1号を発行いたしました。イベント実施やフリーペーパー名変更、休刊等をはさみながら、平成31年2月号を発行する日を迎えることができました。がんばっている皆さまがいたからこそ、鹿野を応援し続けられたのだと思います。これからも「まちづくり応援団えーる」を、よろしくお願いいたします。

鹿野に春、到来！

えーる！

発行：まちづくり応援団えーる



鹿野の町は「桜」がいっぱい！

いきなり雪の降った4月も、気が付けばもう終わりが近づいていますね。今回の「えーる！」では、春の風物詩である桜にちなんだ記事をお届けしたいと思います。

まずは4月14日（日）に行われた、石船温泉さくらまつりの様子をお届けします。

今年で22回目を迎えたさくらまつりは、写真にあるバンド演奏のほか、日本舞踊や大正琴、オカリナ演奏などのほか、徳山高校鹿野分校吹奏楽部「鹿音^{かのん}」や、鹿野中学校吹奏楽部の皆さんによる楽器演奏もありました。

当日はあいにくの曇り空でしたが、会場にはたくさんの方が集まっていました。ステージ前に設置されたテーブルは満員

で、食事をするときは、空いている席を探さなければならぬほどでした。そのステージのまわりには、鹿野の各団体・企業の皆さんがさまざまなお店を出されていました。昼ごはんは会場で食べたのですが、おいしいものがたくさんありすぎて、おなかいっぱいになって

しまいましたよ。会場周辺は、4月なかばにも関わらず、たくさん桜が咲いていました。風が吹くと花びらが散っていく様子もとてもきれいで、つつい桜に見入ってしまいました。名前どおりの素敵な「さくら」まつりになったと思います♪



会場近くの桜は、ご覧のとおりほぼ満開でした！徳山の方はもうほとんど散ってしまった桜も、鹿野ではちょうど見ごろを迎えていましたよ。

まちなかにも桜

渋川の会場から、今度は鹿野のまちなかに目を向けてみました。

鹿野小学校前に植えられた桜は、今が満開！ 校門からの写真では、校舎が隠れて見えないほど大きく育っていましたよ。

鹿野小学校の桜は、かつて戦時中に校医を務めていた津田先生という方が、校医の報酬を投じて植えられたものなのだとか。今でも、校門から図書館側に向けての桜並木はとってもきれいに咲いています、あの桜にはそんな逸話があったんですね。

小学校のそばを通るときは、津田先生のことを思い出してみてくださいね。



まちなかの桜と言えば、鹿野総合支所の横の弾正系桜も有名ですね。樹齡はなんと300年を超えるという長寿なこのしだれ桜は、かつて戦国時代の武将・陶晴賢の家臣である江良弾正の館の土塁に植えられていて、それが名前の由来にもなっています。その大きさは、目通り周囲2メートル70センチ、高さはなんと約8メートル！ ともに、県内一番の大きさを誇っています。

14日には少しずつ葉桜になり始めていましたが、まだまだ花を楽しむことができます。撮影をしたときには、糸桜を背景に写真を撮っている人が、他にもいらっしやいましたよ。

開花期間中は、19時から21時までライトアップされています。昼だけでなく、夜に桜を見たいというのも、おつなものですね♪



しやくなげが

生まれ変わりました

国道315号線沿いにあった「しやくなげ」は、長らく閉店していましたが、このたび「ふる里マルシェかの」として生まれ変わります！ ふる里に帰ったようにほっとする場所をめざすこの場所では、ハム・ソーセージ・パンなどの加工品、野菜や果物など農産物まで、鹿野の皆さんが作ったものを売っています。

100円でコーヒーを飲むこともでき、ゆっくりくつろぐこともできますよ。わたしも試しに飲んでみましたが、ドリップコーヒーは100円とは思えないおいしさでした♪ ちよっとしたドライブの休憩に立ち寄るのもよさそうですね。

お店の外には雑木が植えられています。今は細い木ですが、未来にはお店の外にテラスができる……なんてことも、あるかもしれませんね！



最新情報はウェブサイトで公開中。上のQRコードか、「ふる里マルシェかの」で検索してみてくださいね。

令和初めの長野山

えーる！

発行：まちづくり応援団えーる



「天空カフェ」よう、わんこ天空へ！

元号が平成から令和に

変わり、ゴールデンウィークは10連休と、今年の5月はなんだか特別ですね。そんなゴールデンウィークに、令和初の「えーる！」のため、長野山に足を運んでみました。

長野山の施設は昭和54年に開設されました。お気づきかもしれませんが、今年でちょうど開設40年になるんですよ。記念すべき節目の年に、長野山の魅力をより深くお伝えするべく、長野山ロッジを越えて、展望台をめざしました。

汗の出る強い日差しを浴びながら歩いていくと、写真のような見事な花がたくさん咲いていました！坂の途中や、道を少し外れた場所にある花には、ハチもたくさん……蜜集

めに忙しそうでした。

長野山といえばササユリも有名ですが、取材の時期には咲いていませんでした。ササユリが楽しめる時期は、6月から7月頃になります。初夏の長野山にのぼって、暑さをしのぎながらササユリを楽しむ……というのも、いいものですね！

坂を上り切り、ようやくたどり着いた展望台からは、遠くの山々がかすんで見える絶景！

1000メートル級の山にいる、という実感が

わく景色でしたよ。

長野山ロッジの「天空カフェ」は、実は周南市で最も標高の高い場所にあるカフェなんですって。ここでは飲み物のほか、カレーやうどん、定食などが食べられます。事前に連絡して、バスケットにお弁当を詰めてもらうこともできるんですよ。

テラス席でゆっくりするのいいですが、天気の良い日なら、ぜひ、展望台付近で雄大な景色を楽しみながら、食事をしてみてくださいね。



4月29日には、毎年恒例の山開きが行われました。当日はあいにくの雨模様でしたが、会場にはたくさんの人が集まっていました。その様子をお届けいたします♪

山開きハイライト



会場である長野山ロッジに到着するまで、外は大変な霧でした。視界が悪くて、とても気をつかいながらの運転になりましたよ。

屋外には鹿野ファームさんのテント以外は出店がなくさびしい状況……そんな中でも、かつて「鹿野の風プロジェクト」さんの手で植えられたテラスの木が皆さんを迎えてくれていました。毎年少しずつ成長しているこの木を見るのも、ちょっとした楽しみです。

山開きの最初に、安全祈願祭が行われました。宮司さんにお越しいただいての神事には多くの人が参列し、厳かな雰囲気で行われていきました。

神事が終了した後は、懐かしい音楽を演奏される菊川マンドリンクラブの皆さんや、周南市の光景をオリジナルの歌で伝える三代目バンド「セダイカン」による歌と演奏、「ありがとう」と「とんぼ」を掛けた「ありがとうとんぼ」制作など、皆さんが楽しめる催しがいくつも行われていましたよ。



毎年恒例、マイ箸・器を持ってくれば無料でふるまわれる豚汁は、今回は屋内での配布となりました。配布場所である研修棟の入り口にはあっという間に長い行列ができて、皆さんが楽しみにしていることを感じました。

3つの小鍋にわけられてふるまわれた豚汁は、じっくり煮込まれてどの具材も柔らかくなって、とてもおいしい！

温かい汁のふるまいが、冷えた体にはとても嬉しかったですよ。

令和かのいち

えーる！

発行：まちづくり応援団えーる



今年も半年が過ぎ、もう折り返しですね。今月号の「えーる！」では、先月18、19日の2日間開催された「いつておかえり。鹿野市」について取り上げたいと思います。

15回目を迎えた鹿野市はあいにくの雨でしたが、会場には傘を差している人がたくさんいらしていました！ 水色ののれんがあちこちでひるがえり、お店を手伝う鹿野中学校の生徒さんの声が響きます。がんばって声を出しすぎて、声がかすれている生徒さんもありましたよ。雨が降っていても、子どもたちの声が聞こえるような気がしますね。

しかしなんといっても、今回の鹿野市で一番の驚きは、鹿野市をイメージした歌ができたことです。鹿野小学校の池田先生が作詞作曲した、その名



も「令和かのいち」。鹿野市をにぎやかにしたいと考えた池田先生が、鹿野のふるさとのことを思いながら作った歌です。

この歌は、18日に行われた鹿野小学校児童の皆さんによる路上ライブで披露されました。たくさんの方が集まった中で、潮音洞から水が流れ、鹿野市ができ、それが未来に続いていく様子が歌われました。

現在、鹿野小学校は全校児童76人。「令和かのいち」の他にも、校歌や

潮音洞の歌などを披露し、元気な歌声を聞かせてくれましたよ。

「昭和の香り」を平成の時代によりみがえらせようと始まった鹿野市は、令和まで続くイベントになりました。雨の中の開催も多い鹿野市ですが、萩市や岩国市など、遠い場所からも来場される人が増えてきています。

町の皆さんや児童生徒たち、そして遠くから鹿野を訪れるお客さん。みんなで鹿野市を盛り上げていきたいですね。

鹿野市を彩るお店たち

2日間の鹿野市には、たくさんのお店がありました。焼きそばやウインナー、陶芸教室の作品販売、空き缶やペットボトルで作った風車などが並んでいましたよ。

個人的に気に入ったのは「足やすめ」のマッサージ屋さんです。歩き疲れた取材帰りにマッサージをしてもらいましたが、とても気持ちよかったですよ。疲れもあつてか、眠気がくるほどでした。物を

買うだけではなく、疲れを癒して帰るのもいいものですね。

おいしい食事もいろいろありました。しばかわ工房の肉うどんや、鹿野町商工会青年部の皆さんが作る、鹿野ファームの豚肉を使った豚丼もありました。薄い肉を鉄板で焼く

とてもいい匂いが漂ってきます。昼ごはんは絶対にこれを食べようと心に決めて注文しました。もちろん、味も絶品でしたよ！

大町会場では、周南クオーツ社員の皆さんが作ったパンの販売も行われていました。上市会場にも販売にいらっ

しゃっていました。わたしはさくらあんぱんをいただきました。食後にぴったりの、程よい甘さでしたよ。



かのんちゅ 鹿野人の思い

毎回、鹿野茶の試飲販売を行っている、山口県立大学の学生有志で結成されたグループ「鹿野人」。もと

もとは研究室のゼミの一環、つまり勉強で始まった活動でした。しかし、開始から10年弱が経った今では、勉強を抜きにして有志の皆さんが参加しているんですよ。

参加してくれていた学生さんに、その思いをうかがってみることにしました。

「鹿野の町並みや鹿野の人のあたたかさに触れ、とて



も感動しました。漢陽寺や鹿野茶など、魅力的な物もたくさんある鹿野がとても気に入って、卒業論文でも二所山田神社を取り上げたいと思っています」

「鹿野には鹿野茶やわさび漬、鹿野ファームの肉など、おいしいものがたくさんあります。今後は、そういう物の情報発信をしたいと思っています」

たくさんさんの魅力を持つ鹿野。その魅力を伝えていくことは、とても大事だと思います。大学を卒業しても、ずっと鹿野に関わってほしいなと思います。

人と物とが集う場所



えーる！

発行：まちづくり応援団えーる



毎日、とても暑いです

ね。今年も、もう半分が
終わりましたが、皆さん
はいかがお過ごしでしょ
うか？

今月号の「えーる！」

では、5月1日にJ Aの
直売所だった「しゃくな
げ」の建物を使ってオー
プンした「ふる里マルシェ
かの」の代表で、元J A
の職員さんでもある栢原
勝人さんに、このお店を
始めた思いをうかがって
みました。

「地元である鹿野で、何
か商品を紹介できるよう
な場所がほしいと思いま
した。鹿野で一生を過ご
そうと思うと、色々な物
を作っていく必要がある
と思うのですが、作った
物を売る場所も必要にな
ると感じ、開店に踏み切
りました」と栢原さん。
その思いの通り、広い
店内には鹿野の皆さんが
作った野菜たちがずらり

と並んでいます。鹿野フアー

ムさんの製品や、おしい
十割そばの「のんたそ
ば」、おなじみ子たぬき
のパンの販売なども行わ
れていました。往年のフア
ンの人には嬉しい、「しゃ
くなげ」の食堂で提供さ
れていた豚丼販売や、新
南陽の魚屋さんが持って
きた魚で開催される朝市
なども行われています。

食べ物以外にも、手芸
品を作られている人の布
小物やガーゼ手ぬぐいな
ども販売中です。

そんなお店には、開店
を知った「しゃくなげ」
時代の常連さんが、再び
訪れてくれるようになって
たそうです。中には、鹿
野を通りがかった時には
必ず「しゃくなげ」に立
ち寄ってくれる人もいらっ
しやるそうですよ。
国道315号線そばに、
昔の賑わいが戻ってきた
だね！



窓際には、左のようなテーブルも設置されています。似顔絵コーナー
など、ちょっとしたイベントも行われています。

「このスペースで、寄り合いをしてもらってもいいですね」と栢原
さんは語ります。コーヒー片手に、鹿野のことを考える話し合い……な
んていうことも、できそうです！

物だけでなく、人の集まる場所になったらとても素敵ですね。

ホタルと音楽を楽しみました

6月には、豊鹿里^{ゆかり}パークを会場にした「ホタルのタベコンサート」や、旧大潮小学校グラウンドで開催された「大潮ホタルまつり」など、ホタルに関係したイベントが行われました。鹿野の初夏は、やっぱりホタルですね。

ホタルのタベコンサートでは、名前のとおり、楽器演奏にダンスなど、さまざまなステージが行われ、ホタルだけではなく、素敵な音楽も楽しむことができました。鹿野の外からも、たくさんの方がやって来ていましたよ。



ホタルを守る人たち

多いときは何万匹という数のホタルを見ることが出来る鹿野ですが、自然のサイクルがあるのでしょいか、現在は少し数が減ってきているようです。

大潮地区では、ホタルの減少を食い止めようと、水田の水をすぐに川に流さないようにするなど、自然に配慮した取り組みを行っているんですよ。

初夏になれば暗闇の中でホタルが光り、フワフワと川辺を飛ぶ……という毎年おなじみの風景は、皆さんの取り組みによって守られているんですね。



▲ 小さなホタルも、何万匹も集まると……！

圧倒的な演奏と楽しいトーク

6月2日には、主にロシアと日本で活躍しているピアノリスト・手嶋沙織さんをお迎えして、漢陽寺でコンサートが開かれました。

ロシアのピアノ演奏法のお話や、有名な音楽家のエピソードなど、ピアノ演奏だけではなく、手嶋さんの軽妙な語りが会場に笑いを誘っていました。

もちろん、演奏音も大迫力！ 小柄な手嶋さんですが、大音量で演奏される音楽に、わたしは思わず正座して聞き入っていました。



「裸坊」募集中心！

今年も7月30日に鹿野天神祭が行われます。この天神祭で、文字通り火花を散らしながら巨大な網代車を引き回すのは、さらしを巻いた何十人もの勇壮な「裸坊」たちです。

この「裸坊」をやってみたい人を募集中です。30日は平日ですが、参加してみたいという人は、事務局まで問い合わせてくださいね。



▲ 紅白に分かれ、網代を押し合う裸坊の立ち回り

問合せ

鹿野網代保存会事務局

（鹿野総合支所地域政策課内）

☎ 0834-68-2331

“光”と“熱”の天神祭

えーる！

発行：まちづくり応援団えーる



▲すっかり夜になった会場ですが、たくさんの人が、屋台や数々の催しを楽しんでいます。そして天神祭の風物詩、祭りの最後を飾る催しといえど……。

山代和紙の灯籠が、光で揺れる。

毎日、とても暑い日が続いていますね！ ちよつと外を歩いたら、あつという間に大汗をかいてしまいますね。今月号の「えーる！」は、そんな暑いさなか、7月30日に行われた鹿野天神祭を追いかけてみました。

たくさんさんの屋台が並ぶ会場には、明るいうちからも人の姿が見えていましたが、日が暮れると……ご覧の通り！ 普段は静かな鹿野の町並みが、この日ばかりは人で埋め尽くされていました。親子連れや、友達同士でやって来た学生さんなどがひしめく会場は、まっすぐ歩くのも難しいぐらいでしたよ。

祭りを盛り上げたのは屋台だけではありません。

丸久跡地を使った特設会場では、聖武館の皆さんによる空手の演武や、和太鼓が鳴り響く降松星太鼓、子どもたちが大はしゃぎのお菓子まき、高校生によるダンス披露など、楽しい催しがたくさん行われました。

そして、今年も二所山田神社の境内に向かう参道には、灯籠が設置されました。下の写真のような模様の灯籠だけでなく、鹿野の伝統工芸品「山代和紙」を使ったものもありました。ハート形に並べられた灯籠もありましたよ。鹿野の伝統工芸と、伝統の祭りの素敵なコラボレーションでした。

いろいろなものが集って、もっと天神祭を盛り上げてほしいと思います！



網代熱演！！



そして、天神祭と言えばこれ！ 特設会場での催しが終了し、祭りの最後を飾るのは、さらしを巻いた裸坊たちによる「網代」の引き回しです。裸坊たちがものすごい速度で走り抜けるものだから、カメラを向ける体じゅうに、ものすごい風がぶつかってきました。これには思わずドキドキ！ 子どもたちも大興奮で、会場を網代車が走り抜けるときには、たくさん子どもたちが裸坊の後を追いかけて走っていました。もしかすると、この子どもたちが、未来の裸坊になるかもしれませんね！



来年はあなたも！

大迫力の網代と一緒にひき回す裸坊を募集しています。裸坊が増えれば増えるほど迫力も増し、盛り上がるのが網代です。必要なのは、やる気と元気な体だけ。少しでも気になった人は、下記まで問い合わせてみてくださいね。一緒に鹿野の夜を盛り上げましょう！

問合せ

鹿野総合支所地域政策課 ☎ 0834-68-2331

2 畳に込められた情熱



▲徳山駅前図書館 2 階に作られたのは、わずか 2 畳の茶室「紙光庵」^{しこうあん}。実行委員会の情熱、職人の技術が、この茶室を作り上げました。

えーる！

発行：まちづくり応援団えーる



夜は涼しい、というよ

り寒くなつて、もう秋になりましたね。稲刈りの済んだ田んぼも、あちこちで見かけるようになりました。今月号の「えーる！」では、徳山駅前図書館で行われたイベントについてお届けします。

「工芸としての茶室」展と名付けられたこのイベントは、9月16日から23日にかけて行われました。徳山工業高等専門学校^{しこうあん}の学生を中心にした実行委員会が開催したこの企画では、紙と木で作られた茶室展示や、各種イベントが行われました。徳島県の職人の手による藍染の畳縁と、壁面と障子に使われた和紙が特徴的です。

そして、茶室に使われている和紙は、鹿野の伝統工芸品である山代和紙なんです。完成までに使われた山和紙の提供枚数

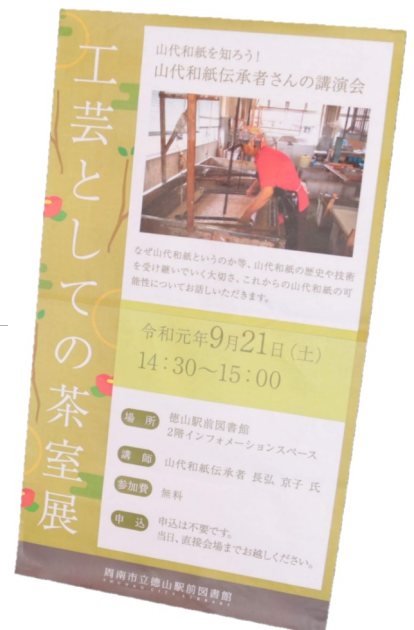
は、なんと100枚以上とか！

実行委員会代表の川根さんは、徳山高専に在籍する学生さんです。周南市の伝統工芸と、この茶室を作る職人の技術をたくさんの人に知ってもらいたいとの思いから、企画の成功に向けて精力的に活動されていました。

川根さんが実際に紙すきを見学し、この企画が本格的に始動したのは、なんと今年の2月のこと。それから約半年でこうして形になり、皆さんの目に留まるようになったということから、その情

熱の強さを感じられると思います。左のバーコードを読める環境をお持ちであれば、茶室展のメイキング映像を見ることが出来ますよ。

次のページでは、川根さんが「雲のような表情」と表現した山代和紙について、山代和紙の紙すきを伝承した長弘京子さんのお話しをお伝えしたいと思います。





次代につなげたいものがある

～山代和紙伝承者 長弘京子さんの思い～

9月21日に、山代和紙伝承者である長弘京子さんの講演会があり、その思いを聞くことができました。

山代和紙は流しすきという方法で作られ、障子紙や傘などに利用されるほど丈夫で、江戸時代、毛利藩の財政を支えた「三白」の1つに数えられていました。

しかし明治・大正と時代が進むと、しだいに和紙の需要が減り、紙すきをする家も減っていききました。

そんな中、この伝統技術を絶やさないため、昭和54年に鹿野高齢者生産活動支援センターが和紙部門を設け、その技術を復活させました。長弘さんが和紙すきを始めたのは10年以上前のことで、20年以上紙すきに携わっている原田瀧子さんと一緒に、和紙すきを続けています。

山代和紙を作るための作業は、2人だけがしているわけではありません。センターの皆さんが協力して、材料のコウゾやミツマタを処理し、老眼で見えないとぼやきつつ、きれいな紙になるようにゴミ取りを行っているんですよ。

和紙すきは、重い道具を使うため体力的にきつく、冬の寒い中で冷たい水を扱うため、辛抱強さも必要なのだから。材料を育て、下準備をし、そして形にする……たった1枚の紙を作るのにも、たくさんの方が協力し、大変な労力がかかっているんですよ。

右の掛け軸の書を書かれているように、書家という紙を使う立場から山代和紙に携わった長弘さんは、和紙を作り続けるうちに喜びを感じ、もつとよい和紙を作ろうという気持ちになってきたそうです。

和紙をすき始め、和紙と向き合っていくと、しだいに心が無になり、1枚1枚の大切さを感じることでできるそうです。紙が生きている、呼吸をしている……そう感じながら、紙をすいているんですよ。



「今からの仕事と想っていることは、この伝統工芸を絶やさないこと、次の世代につなげ、未来にこの技術をつなげていくことです」と長弘さんは語ります。このすばらしい技術が、これからも続いていくと素敵ですね！

鹿野高齢者生産活動支援センター

山口県周南市大字鹿野中734-4

☎0834-68-3640

紙すき見学や体験学習、物品販売も行っています。詳細は左バーコードかセンター名で検索してみてくださいね。



COUNTRY FES 開催！



▲ステージで演奏する、「ふたり季節」のお2人。他にも、多数の出演がありました♪

えーる！

発行：まちづくり応援団えーる



わんぱくフェスタの

新しい出発

11月になって寒さもかなり厳しくなってきましたね！ もう秋というより、冬の様相になってきましたね。

今月号の「えーる！」の一面は、10月13日に行われた「COUNTRY FES」のご紹介です。

このイベント、聞き慣れない……という人もいらっしゃると思いますが、実はこの時期の風物詩であるわんぱくフェスタが新しく生まれ変わったイベントなんですよ。

子どもたちのお祭りであるわんぱくフェスタより、もっと田舎のお祭り感を出したいという思いから、食の要素に音楽を加えて、それにふさわしいイベント名にしよう、という思いから、イベン



▲音楽と「食」のコラボなので、おいしい食べ物もたくさん！
鹿野黒毛和牛のカントリー焼きが大人気でしたよ。

ト名も新たに開催されたんですよ。

タイヤの怪物や小学生

のマラソン大会、丸太切り競争などわんぱくフェスタの要素を残しつつ、特設ステージ上では吹奏楽団やバンド演奏などにぎやかな音楽が奏でられていました。昔懐かしい曲も演奏され、思わず

歌を口ずさんだ人もいらっしやるのではないでしょう

うか。
音楽や歌声はよく晴れた空に気持ちよく響き渡って、写真を撮りながら気持ちウキウキしてくるような、そんな感覚を楽しめました。素敵な音楽を聴いていると、気分が楽しくなってきましたね♪

鹿野高原豚と、周南市のトマトと、宇部市の学生



11月に入り、道の駅ソレーネ周南で売り出された「しゅうなん豚^{トシ}トマバーガー」をご存知ですか？周南市のいろいろなものを集めたしゅうなんブランドの中でも、選挙の

結果リーダーとして選ばれた鹿野フアームさんの「鹿野^{かのこうげんとん}高原豚」を使ったトンカツ、そして市内で作られたトマト。この2つの食材をふんだんに使った、宇部フロンティア大

学の学生さんが考えたのが、このハンバーガーなんです。

発売開始した日に、さっそくその味を楽しみにソレーネ周南へ行ってきました。

鹿野高原豚のトンカツは、ブランドリーダーに選ばれただけあって、かんだ瞬間にお肉のおいしさが口の中に広がります。一瞬、これだけ食べたいな……なんて思ってしまうほど、おいしい豚肉ですよ。

その味を引き立ててくれるのは、ちよつと辛口に作られた、スペインのソースであるサルサです。ワサビや辛子とはまた違った辛みが、とても新鮮な味付けを添えてくれています。トンカツと聞くと、辛子をつけて出

すお店もありますが、トンカツにはちよつとした辛みが合うのかもしれない。

上の写真を見ると、なんだかトンカツが薄くて物足りない……そんな人もいらつしやると思いますが、ぜひ一口食べてみてください。分厚いパンにはさまれていても、2つの味がしつかりと主張してきて、この厚みがちょうどいいんだなと実感しました。

このハンバーガーは、ソレーネ周南の外にある店舗で販売されています。このハンバーガーの他にも、鹿野「牛」を使ったハンバーガーをはじめ、いろいろな軽食を楽しむことができます。ドライブの時は、ソレーネ周南で一息ついてみませんか。

今年も“銀嶺の舞”の季節です

来月は12月、令和元年も終わりです。鹿野で、1年の締めくくりに言えば、冬の澄んだ夜空に花火が映える「銀嶺の舞」ですね。

日が高いうちからいろいろなバザーが出たり、特設ステージでイベントが行われたりと、花火開始までも、会場で楽しめますよ。メインイベントの花火も、レーザー光線や煙幕を使用したり、音楽で

演出されたりと、単なる打ち上げ花火にとどまらないのが特徴的です。今年で27回目になる、鹿野の冬を彩るこのイベントは、今年は12月14日（土）に開催予定です。温かいコーヒーでも飲みながら、素敵な花火を楽しんでください。



山口県の旅行・観光情報にも情報が掲載されています。右のバーコードから確認できますよ。

